



乃木小だより

～ かしこく つよく やさしい子 ～

「“顔晴れ” ＝ 声出せ 汗出せ 知恵を出せ ＝」

～まつえ湖南学園～
松江市立乃木小学校
令和7年2月26日
(文責) 校長 野津

＝ 授業公開&学級懇談を終わって ＝

このところ寒波が続き、所々、路面に積雪がある中でしたが、先日2月19日と21日、今年度最後の授業公開日には保護者の皆様に多数お出かけいただきありがとうございました。これまで学んできたことの成果発表や、4年生の「十才記念式」、6年生の「保護者への感謝の会」など保護者の皆様へのメッセージ性の強い学習も見られました。どの学年も、1年間の締めくくりとして、こどもたち一人一人の成長した姿を観ていただくことができました。おうちの人の前では、普段の授業とは違う一面が表出することも少なくありませんが、ご覧になられていかがでしたでしょうか。



また、授業後の学級懇談にもご協力いただきありがとうございました。必ずしも参加が多い学級ばかりではありませんでしたが、最近の学級の様子を情報共有したり意見交換したり、出られた方にとっては、参加してよかったと思えるひと時になったのではないのでしょうか。懇談の中では、こどもたち個々の成長を認め合う話題とともに、親と子のつきあい方や友だちとのかかわり方に関する話題もあったようです。

人と人の接し方にまつわる「ヤマアラシのジレンマ」という心理学の寓話があります。寒さに弱く固まって過ごす習性のあるヤマアラシが、暖を求めてお互い近づき過ぎると横にいる隣の針が刺さり合って痛いし、かといって離れすぎると寒くてたまらない、そんな「人との距離感」を保つことの難しさを表した事例です。もちろん誰とでも良好な人間関係を築いていくことが理想であり、それを目指しています。しかし、生活しているといろいろなトラブルも起きてきます。時にはぶつかることもあります。周りに大きな壁を作ってしまうこともあります。同時に、自分の針が相手を傷つけていないか考えることも必要です。学校は、成長の過程で、自分と相手を大切にしながら、人との上手なかかわり方を学びつつ、しっかり自立して社会に出ていけるよう力をつけていくためのウォーミングアップの場でもあります。

今回、学級懇談は、教員にとっても、1年間を振り返ってみて、こどもたちの伸びてきた姿を再確認し、改めて次年度に向けての期待を抱くことのできた有意義な時間となりました。

なお、今年度、学級役員を務めていただいた皆様には、特にいろいろお世話になりありがとうございました。

＝ たかが体力、されど体力 ～運動好きなこどもに～ ＝

からだの踏ん張りが弱くふわふわした感じ。転んだりぶつかったりすることが多い。ぎこちない感じでリズムに合わせて歩くことが苦手。立ったままでじっと話を聞くことが難しい。「疲れた疲れた」といって机にもたれかかったり、すぐほおづえをついたりする。・・・これは、本校に限ったことでなく、最近のこどもたちに時折みられる姿です。「きちんと座りましょう」「こっちを向きましょう」などと何度繰り返しても、そもそも学習に向かうために必要なからだの仕組みが発達していないと、簡単には直りません。

特に、体幹の力不足は、姿勢を保つことができず学習や生活でよい取組ができない原因となりえます。よい姿勢でからだの軸をしっかり保つことができれば、頭も心もシャキッと、集中して学習に取り組むことにつながります。学習に向かうために必要な崩れない姿勢、つまり学力向上の土台ともいえるからだを支えたり、どっしりと構えたりする力をこどもたちに身に付けていくことが大切で、乃木小学校では、毎朝「姿勢体操」を継続して取り組むことでからだづくりを進めています。

また、文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」によると、近年こどもの体力・運動能力は全体的に低下傾向が続いています。からだの発育は進んでも、運動機能の発達は十分でないようです。

さらに、最近のこどもたちは、靴の紐を結べない、ボタンを留められない、スキップができないなど、自分のからだを操作する能力の低下も指摘されることをよく耳にします。乃木小は、投力の低さも課題です。生活環境が便利になってきた半面、手先を使って、握ったりつまんだりひねったりする経験が少なくなったことが器用さが育ちにくくなっていることに影響しているかもしれません。

このような体力や運動能力の低下は、運動したりからだを動かして遊んだりすることを敬遠する傾向におちいり、それがさらに心やからだの健康を損なうことにもつながります。何かをやらうとする気力の低下とともに、勉強する意欲も弱くなってきます。運動不足は、深刻な問題と言えます。

世の中、健康ブームです。ジョギングを日課にしたりスポーツジムに通ったりする大人も随分増えてきました。人の運動機能は、発達段階で成長の度合いが異なり、特に小学生の頃は神経機能がよく発達する時期と言われ、だからこそ、今この時期にこそ、将来の豊かなスポーツライフにつながる基礎感覚・基本動作をしっかり習得しておくことが重要です。

体育の授業はもちろんですが、日常的に、逆さになったり腕でからだを支えたり、ぎゅっと力を入れたり引き締めたりする動きをたくさん経験しておくことが大切です。

ちなみに、こどもを運動好きにするには、失われつつある“3つの「間」”が必要な要素とよく言われます。



- **時間**・・・からだを動かす時間を確保することです。
- **空間**・・・からだを動かす場所・環境が必要で、自由に使える用具があることも大切です。
- **仲間**・・・一緒に集団で群れとなって遊ぶ仲間がいることは大きな後押しになります。

こうした3つの「間」を土台として、私たち大人が折を見て啓発したり一緒に遊んだりする手間をかけ、家のお茶の間でニュースを見ながらスポーツのことを話題にすることも運動の日常化につながります。こどもたちがからだを使って遊べる時間を確保し、思い切りからだを動かせる空間を整え、仲間と共に多様な運動あそびの経験を積めるように支えていくことが私たち大人の役割と言えるかもしれません。

このところ、休み時間に縄跳びを頑張っているこどもをよく見かけます。また先日は、積雪で真っ白になった校庭で、寒さを忘れ夢中になって遊びまわるこどもがたくさんいました。乃木小のこどもたちが、からだを動かして遊び、運動することが大好きなこどもに育ってほしいと願っています。

